

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念の1つに「地域とのつながりを大切にします」を掲げ、地区の夏祭りへの参加や園の年間行事への参加を地域住民に呼びかけ、交流を図っています。	法人全体としての理念に基づいた事業所独自の理念がつけられており、事業所玄関に掲示しています。また、理念が実践できるようにご利用者と一緒に地域のお祭りに参加したり、事業所の行事にも地域の方に参加して頂いています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・年に数回地域の公園の草取りや敬老会などに参加させていただくと共に、ボランティア募集を呼びかけ、日常的な交流ができるように努めています。	自治会に加盟し、地域の夏祭り・さいの神などの行事への参加もしています。また、事業所の音楽コンサートには地域の方にも参加していただけるほか、納涼祭に地域の方が来てくれるなど、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・パンフレットやお便りを地域に配布し、園の活動を報告しています。地域の方に認知症の方を理解していただく取り組みとして認知症サポーター養成講座の実施を検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・年6回の会議でサービス実施状況や取り組みの報告を行っています。地域住民や市職員に参加いただき、サービス向上に努めています。。	運営推進会議には、市議会議員、市の担当者、包括支援センター職員、民生委員、区長、老人クラブ会長等に参加して頂き、ご利用者に関する情報、事業所の活動内容を報告し、参加者よりさまざまな意見を伺い、改善の参考にさせていただいています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議には市の職員にも参加していただき、取り組みに対しての意見やアドバイスをいただいています。介護保険係の担当者とも連絡を取り合い、アドバイスをいただいています。	運営推進会議には市の担当者、包括支援センター職員にも参加して頂き、事業所の状況を報告し、意見を頂いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外部研修への参加や日々のミーティング等で話し合っています。玄関等の施錠をなくすことが今後の課題です。	外部研修の参加者より研修内容を職員会議などで話し合いを行うことで、身体拘束の防止に努めています。また、やむを得ずセンサーを使用するような場合は、ご家族の理解が得られています。	日中の玄関の施錠について職員間で検討し、現状より改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部研修に参加し、その後園内でも報告の研修等を行い、防止に努めています。	身体拘束同様に外部研修の参加者より研修内容を職員会議などで話し合いを行うことで、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を活用されている方は、現在いませんが、家族等の状況を常に把握し、包括支援センターなどに適宜相談するように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者、ケアマネージャーが利用者や家族の理解を得ながら、説明しています。不明な点がある場合、納得がいくまでご説明させていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・契約時に相談、要望、苦情等の窓口を説明させていただいています。園内にも意見箱を設置し、面会の機会も活用して、運営に反映できるように努めています。	ご家族の面会時でのやりとりをカンファレンスシートに記録し、職員間で共有し、職員会議で検討の機会を設けています。また、ご家族会も実施し率直な意見を収集できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・定期的な会議やミーティングの中で意見が出しやすいような雰囲気作りを心がけています。また年に1回必ず職員から意見を伺い、理事長、管理者との話し合いの場を作っています。	毎日行われているミーティング、毎月の職員会議において、職員から出された提案を職員間で検討しています。また年に1度は、理事長・管理者との面談の機会も設け、職員の希望による人事異動に対応したケースもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・人事考課により、職員の働きに応じた評価を行っています。職員個々の長所を活かしながら、全員の業務が均等となるように環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・25年度は研修計画をより明確にしています。年に2回実施している内部研修、自己点検により、職員個々の力量や全体の傾向を見極め、必要と思われる研修へ参加できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同法人の介護施設と交流、意見交換しているが、他事業所への施設見学の機会をもっと増やしたいと考えています。地域のグループホーム会議にも参加し、意見交換しています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に利用していたサービスの利用状況やご家族との面談で情報収集し、本人をすべて受け入れることから始め、安心して入居できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の要望や困っている事を把握するために聞き取りを十分に行い、ご家族も話しやすい環境作りを進めています。社会資源を利用した将来的な方向性なども明示できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・優先すべきことを見極めて、無理なくサービスが開始できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・認知症の医学的な理解を深める一方で、認知症であるという概念に囚われないよう努めています。本人の尊厳を大切に、本当に必要な介護だけを行い、利用者と共に生活を楽しむようにしています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・施設のご様子は、月に1度のお手紙や面会時に伝えています。運営推進会議への参加依頼や受診対応をお願いし、出来るだけ本人と関わる時間を持っていただくように努めています。	毎月送付している事業所広報には、施設長が個々のご利用者の生活の様子についてコメントを添え送付しているほか、ご家族参加の行事や受診をご家族にお願いすることでご利用者や事業所との接点を作り、ご家族とコミュニケーションをとりながらご本人を支える取り組みが行われています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人のなじみの方が訪れたりドライブでなじみの場所に掛けるなどして、住み慣れたこの地域で暮らしていることを実感していただけるように支援しています。ご家族には写真等を持ってきていただき、一緒に共有しています。	ご家族にも協力して頂き、知人の方に面会に出かけたり、出身地区のお祭りに参加したり、病院にお見舞いに出かけたり、行きつけの美容室を利用するなど、馴染みの関係が継続できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者個々の言動を把握し、利用者同士が相互に支えあい、励ましあうことが出来るように努めています。必要に応じて職員が仲介に入り、良好な関係が維持できるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご家族や関係機関との連携を取り、具体的な方向性が決まるまで責任を持って対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・契約時の情報収集や日々のアセスメントにより、意向や希望を把握し、ケアプランに取り入れるように努めています。また意向や希望等が判断できない方に関しては、利用者の情報を基にその人らしさを大切に、検討しています。	利用開始時のアセスメントや日常の会話や行動からご利用者の意向の把握に努めています。今後は担当制を導入し、これまで以上にご利用者の意向に添った支援をしていきたいと考えています。	ご家族の意向や、サービス担当者会議実施に関する記録が調査時点では確認できませんでしたので、今後は記録に残されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・その人を知るためにもご家族からの情報収集は重要視しています。これまでの生活リズムを崩すことなく生活できるように支援しています。	契約時にご利用者やご家族からの聞き取りにて、これまでの暮らしの把握に努められていますが、アセスメントシートの作成が契約時のみで、情報の見直しや更新がされていませんでした。	アセスメントシートの見直しが必要時や定期的に行われるように、検討の機会を持たれる事を期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・起床時のバイタルチェックを実施し、常に変化がないかを観察しています。一日の過ごし方は、その日の状態によって、適宜提案させていただき、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・どんな小さなことでも課題として日々検討し、6ヶ月に1回のペースでモニタリングを行っています。モニタリングで検討された課題は介護計画に反映しています。	業務日誌で介護計画の日々の実施状況について評価しているほか、6ヶ月に1度は定期的に介護計画のモニタリングを行うようにしています。	調査時点でモニタリングが遅れているご利用者や、介護計画の作成が遅れているご利用者もいましたので、早期に対応されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録の他に各種チェック記録で日々の様子を記録し、介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・併設デイサービスとの連携を活かし、集団レクリエーションへの参加やデイサービスの余暇活動などへ参加しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・夏祭りや地域行事に参加するなどして、多くの方と支えあっています。包括支援センターや市と連携し、社会資源の活用について相談しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医への受診対応はご家族にお願いしていますが、状態によっては受診に同行させていただき、医療機関との連携がうまく繋がるように支援しています。	事業所に往診に来ていただいているご利用者もいるほか、ご家族の支援や職員の同行により、希望する医療機関での受診が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療的な問題については、併設デイサービスの看護師に適宜、相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中の様子や退院時の情報については適宜、病院関係者、ご家族と連絡を取り、早期退院に向けて安心して治療が出来るように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・退所判定基準を作成し、契約時にご家族に説明しています。	退所判定基準を作成し、契約時に事業所の支援の方針をご家族に伝えられています。また、ご利用者の状態に応じてご家族と話し合いの機会を持ったり、職員にも検討した内容を伝えるなどして方針の共有を行っています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命訓練、AED講習に参加し、職員全員が緊急時の対応が出来るように努めています。	消防署の救急救命講習、AEDの使用講習に参加したり、事業所でも地域の方にも参加して頂き救急救命講習を実施し、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・毎月避難訓練を実施し、利用者や職員の動きを確認しています。市内の消防署への通報訓練や地元消防団との夜間帯を想定した避難訓練も実施しています。	消防署・地域の消防団との合同の避難訓練や事業所独自の毎月の避難誘導訓練が行われています。また、非常用の食品や水の準備もされておりました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者とは常に対等な関係であることを忘れず、その人らしさを尊重するように努めています。プライバシー保護に関しては、契約時に個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ています。	言葉遣いなども日常のカンファレンスにおいて確認するなど、個人の尊厳に配慮した対応がとられています。また、契約時には個人情報の取り扱いについて同意を頂いています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来ることやしてみたいことを利用者と職員が一緒に探し、それが実現できるように努めています。受容の気持ちを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者個々のペースを尊重するようにしています。その日の活動は職員の思いを押し付けないようにし、本人の意向を尊重するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自己決定を尊重し、季節や天候に合わせて、洋服の提案を行っています。同じ服が続かないように収納も工夫しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・誕生日や行事では希望を伺い、特別な食事にしています。食事の準備では、日常的に野菜の下準備などの作業と一緒に調理、後片付けを行っています。	ご利用者にも食事の準備や後片付けにも協力してもらっています。また、ご利用者の誕生日には希望メニューを提供するようにしているほか、事業所の畑でのじゃがいもやナスなどの野菜の収穫もご利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事量や水分量、嫌いなもの等にも配慮し、食事時間もその人にあったペースを大切にしています。栄養士に献立について相談し、バランスの取れた食事が提供できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後にご自分で出来る方には声かけを行い、出来ない方は必要な介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・出来るだけ利用者のペースを重視しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンや排泄状況の把握に努めています。	個々のご利用者の状況により、必要な場合はチェック表を作成し、排泄パターンを把握した上でのトイレ誘導が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・医療機関とも相談して対応しています。水分の取り方や食材や食事形態の対応など、その日にあった対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・利用者の要望を聞いて入浴を行っています。入浴だけではなく足浴をされる方もいます。	デイサービスのお風呂も含め、種類や時間の希望に添えるよう支援がされています。また、入浴を嫌がるご利用者の対応も工夫し、入浴して頂けるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中は作業的な活動だけでなくテレビ、ビデオなどを見てゆっくり過ごせるような環境作りを行っています。夜間良眠していただけるように、日中好きなことやしたいことを十分にできるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・配薬は毎日翌日分を行っています。二重のチェックを行い、服薬後の本人の様子観察を十分に行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者のしたいこと、楽しみを重視しています。一緒にゲームをしたり、声かけ一つにしても、喜びに繋がるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・日常的に買い物やお花見等、季節にあった外出支援を行っています。車で地域や山の景色を見に出かけることもしています。	ご利用者と一緒にスーパーに買い物に出かけたり、季節に応じたお花見や紅葉見学など外出支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・以前は小額を管理していましたが、事故防止のため現在は現金管理を中止しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話、手紙の要望には随時対応しています。家族などの電話連絡も、本人に取り次ぎ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ゆったりとした空間を保っています。季節の絵などを飾り、年中の祭り事や行事の装いも変化をつけています。利用者の作品も飾っています。	白と木目を基調とした清潔間と開放感のある空間にほどよくご利用者の作品や装飾がされており、季節ごとに掲示物を変えて季節感を出すようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルだけではなく、ソファを置き自由に楽しめる工夫をしています。テレビや音楽も本人が自由に楽しめるように声かけを行っています。今後は畳スペースの設置も考えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内は利用者と家族の希望するものを使っています。面会時には、家族と自由に過ごせる空間作りをしています。	ご利用者それぞれの使い慣れた家具や装飾が行われ、居心地よく過ごせる空間作りへの配慮が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内はすべてバリアフリー構造になっており、手摺も歩行可能な場所にすべて取り付けられています。		